

一 次の(1)・(2)の文の―部の漢字をひらがなに直して書きましょう。

(1) 話し合いを重^おねる。

(2) 屋外^いに出る。

二 次の(1)・(2)の文の―部のひらがなを漢字に直して書きましょう。

(1) 荷物^{にもの}をはこぶ。

(2) 山里^{やま}のりよかんにとまる。

三 次の(1)・(2)の言葉^{ことば}を漢字を使って書くとき、正しく送り^{おく}がながつけられているものを、それぞれあとの1から3までの中から一つえらび、その番号を書きましよう。

(1) こまかい
 1 細まかい
 2 細かい
 3 細い

(2) うつくしい
 1 美しくい
 2 美しい
 3 美い

四 次の四つの言葉^{ことば}を国語辞典^{こくごじてん}で調べます。国語辞典でさいしよに出^でてくる言葉^{ことば}はどの言葉^{ことば}でしょう。あとの1から4までの中から一つえらんで、その番号を書きましよう。

1 きつつき
 2 キツク
 3 きっかけ
 4 気づく

五 国語辞典では、形^かが変わる言葉^{ことば}は、次の【れい】のように言い切りの形で出ています。

【れい】まよ^まつてしま^まう ↓ (国語辞典で調べるとき)

まよ^まう

「花^{はな}たばをかか^かえたピアニスト」の中の―部の言葉^{ことば}について調べるとき、どのような形にして調べるとよいですか。ひらがな四字^{よじ}で書きましよう。

六 次の文の主語^{しゅご}を、アからオまでの中から一つえらんで、その記号^{きごう}を書きましよう。

ア わたしの
 イ 家に
 ウ 友だちが
 エ あそびに
 オ きました。

【解答】

1

- (1) 3
- (2) 1
- 二
- (1) 4
- (2) 2
- 三
- 2
- 四
- 4
- 五
- 2

2

- イ
- 二
- (1) エ
- (2) ア
- 三
- ウ
- 四
- エ
- 五
- イ
- 六
- 3

3

- 3
- 4
- 2
- (親とちがうところは) (体の色が赤ではなくすきとおっていると) ころです。

4

- 4
- 二
- 2
- 4
- (パソコンのよいところは) (絵や写真を入れた年がじょうが手軽にできることです。
- 四 時間
- 五
- 2

5

- 3
- 4
- 四
- 2
- (徳島の方言の持ちようは) (相手にやわらかく聞こえることです。
- 二
- 3

6

- 3
- 二
- 1
- 三
- エ
- 四
- (慣用句を使うときに大切なことは) (その意味を正しく理解して使うことです。

7

- 3
- 二
- 2
- 三
- ができます (。そして) (カードをも
- 四
- 2

8

- 3
- (1) ころ
- (2) (がる)
- 5
- (2) 1
- 二
- ひっき
- 四
- 2・4
- (1) 勝 (つ)
- (2) 相談

9

- 3
- (1) かさ
- (2) (ねる)
- (2) おくがい
- 五
- かかえる
- 四
- 3
- (1) 運 (ぶ)
- (2) 旅館
- 六
- ウ